

返信先FAX番号：03-3501-2052

別添2

あて先：厚生労働省医薬・生活衛生局総務課医薬品副作用被害対策室 付

各中学校 ご担当者 様

御中

【薬害教育テキスト「薬害を学ぼう」に関するアンケート】

- 平成28年度(中学3年生)用のテキスト「薬害を学ぼう」について、以下の質問にお答えください。(該当する番号に○をつけ、空欄には自由にご記入ください。)アンケート結果は、今後の教材作成に役立てるため、8月31日(水)までにFAXでご回答いただきますようご協力をお願いします。

1 使用状況・予定 *いめわりは過ぎていきす。テキストや視聴覚教材を使って指導して、いめわりは過ぎていきす。このFAXを送らせていただきます。*

- ① 授業等で使用した(又は使用予定) ② 授業以外で、配布のみ行った(又は配布予定)
③ 使用・配布の予定はない

1-1 「①授業等で使用した」場合は、どの教科等で使用したかご記入下さい。

(※ ②保健体育科で使用する場合は、本教材が取り扱っている薬害問題は、薬物乱用防止とは全く異なる問題であることにご留意下さい。)

- ① 社会科 ② 保健体育科 ③ 総合的な学習の時間 ④ その他(保健委員会の活動)

上記で記入した教科等の中において、どのような内容に関連して使用したかご記入ください。

- ① 消費者の保護 ② 人権 ③ 公害 ④ 医薬品の適正使用
⑤ エイズ・感染症の予防 ⑥ 薬物乱用 ⑦ その他 ()

2 教材の発送時期について

- ① ちょうどよい ② 早すぎる ③ 遅すぎる

上記において、「②早すぎる」又は「③遅すぎる」場合は、その理由をご記入ください。併せて、発送の時期として適切と考えられる時期をご記入下さい。

3 指導の手引きについて

- ① 内容が適切 ② 内容が難解 ③ 内容が易しすぎる
④ 使っていない ⑤ その他

上記において、「②内容が難解」、「③内容が易しすぎる」、「④使っていない」、「⑤その他」を選択された場合、改善点等をご記入ください。

P.2 学習のポイント1.2 確認や共通点についてもうつれ具体的な背景や記述がなければと思つた。薬害と副作用の違いを考へる点から難しい内容でした。

P.6 学習のポイント1: それぞれの役割 = 高校生としてでることを考へる点のためには、もっと身近な具体的な事例があれば良かったと思つた。

4 視聴覚教材について

① 授業等で使用した(又は使用予定) ② 使用の予定はない

上記において、「①授業等で使用した(又は使用予定)」を選択された場合、どのように使用されたか、視聴覚教材を使用した感想、改善点等をご記入ください。

- ・テキストの内容だけでなく、当時のニュースの映像や 数集会社
が集の安全映像としていた映像ほど 様々な映像が盛り込まれていて
：被害者の方のお話をうかがえる映像はインパクトが強いに残った。 知られたい
5 その他このテキストや同封した指導の手引きについて、ご感想・ご意見がありましたら、ご記入ください。(授業
での活用方法や活用において工夫した点、また活用に当たって問題となった点などご自由にご記入ください。)

テキストに加え、指導の手引きやワークシート、視聴覚教材が
公開してあったので、参考にさせていただき、保健委員会活
動として取り組むことができた。活動報告を別紙にて
添付する。

広島 都道府県 広島県 立 福山養正中学校 高等学校
ご担当者名 [redacted] 電話番号 084-923-0400

ご協力よろしくお願いします。

問い合わせ先：医薬品副作用被害対策室 管理係 (TEL 03-3595-2400)

平成 28 年度あしび祭保健展「薬害を学ぼう」について

福山葦陽高等学校

保健美化部

1 保健展の目的

- ・地域や社会で起きている健康に関する問題を葦陽生に投げかける。
- ・展示物を作ることにより保健委員自身も自分の健康を考えるきっかけとする。
- ・健康に関する課題を解決できる手立てとなるような展示を工夫し作成する。

2 今年度のテーマ「薬害を学ぼう」について

- ・日頃、本校の生徒のなかに、自分の持つ内服薬を安易に友だちに譲るなど、軽はずみな行動が見られる。薬に対して慎重な行動をとってほしいと考え、「薬害について」をテーマに保健委員で学び、全校生徒に投げかけることにした。
- ・薬害の歴史を学ぶとともに、なぜ薬害が発生したのかを考える。
- ・どうすれば薬害をなくすことができるのか、また、自分自身がどのような役割を果たせば良いのかを考える。

3 活動内容

※生徒保健委員あしび祭班は、1～3年生各学年2クラスの計24名で活動。

第1回 9月27日(火) 13:00～13:20 活動場所；保健室 参加；あしび祭班24人

- ・今年度の活動テーマについて意見交換をさせたが、意見が出なかったため、あらかじめ準備していた厚生労働省「薬害を学ぼう」の資料を配布し説明する。
- ・今年度のテーマを「薬害を学ぼう」にすることを決める。
- ・次回の活動日(中間試験、修学旅行終了時)までに資料を読んでおく。

第2回 10月12日(水) 昼休憩 13:00～13:20 活動場所；保健室 参加；あしび祭班23名

- ・ワークシートを配付する。
- ・ワークシートに沿って6クラスで6つの薬害を分担してまとめる。
- ・各自でワークシートに記入して提出する。

第3回 10月17日(月) 放課後 16:00～16:50 活動場所；視聴覚教室 参加；あしび祭班21名

- ・「薬害を学ぼう」視聴覚教材を視聴。
- ・各自記入したワークシートを提出。
- ・未提出者、欠席者は10月18日(火)までに提出。

第4回 10月20日(木) 昼休憩 13:00～13:20 活動場所；保健室 参加；1年7組3名

- ・「サリドマイドによる胎児の障害」についてワークシートを再度見直してまとめる。

第5回 10月20日(木) 放課後 16:40～17:00 活動場所；保健室 参加；1年3組4名

- ・「キノホルム製剤によるスモンの発生」についてワークシートを再度見直してまとめる。

第6回 10月21日(金) 放課後 16:00～16:30 活動場所；保健室 参加；2年6組6名

・「血液製剤によるC型肝炎ウイルス感染」についてワークシートを再度見直してまとめる。

第7回 10月24日（月）昼休憩 13:00～13:20 活動場所；保健室 参加；2年3組3名

・「血液製剤による HIV 感染」についてワークシートを再度見直してまとめる。

第8回 10月24日（月）放課後 16:00～16:30 活動場所；保健室 参加；3年4組4名

・「MMR ワクチン接種による無菌性髄膜炎」についてワークシートを再度見直してまとめる。

第9回 10月25日（火）昼休憩 13:00～13:20 活動場所；保健室 参加；3年7組3名

・「ヒト乾燥硬膜の使用によるプリオン感染症」についてワークシートを再度見直してまとめる。

第10回 10月26日（水）放課後 16:40～17:00 活動場所；保健室 参加；3年4組4名

・掲示物製作。

第11回 10月27日（木）放課後 16:40～17:00 活動場所；保健室 参加；クラス代表6名

・掲示物製作。

第12回 10月28日（金）放課後 16:00～16:20 活動場所；会議室 参加；クラス代表6名

・会場の会議室に展示作業。

※10月31日（月）～11月4日（金） あしび祭保健展で会議室に展示。

第13回 11月4日（金）放課後 16:00～16:20 活動場所；会議室 参加；クラス代表6名

・会場の会議室から撤去作業。保健室前廊下に展示。

※11月4日（金）～11月30日（水） 保健室前廊下に展示。

4 保健委員の感想

- ・製薬会社や国、病院がしっかり気を付けていたら、起こらなかったかもしれない薬害が多かったの
で十分に安全の確認をしてほしい。
- ・私たち自身も何か異変を感じた時はそのままにせず、病院に行き、問題があった時はきちんと発信
をしていかなければならないと思った。
- ・薬害が起きてしまった原因には、国や製薬会社の管理の不届きがあったりして、今も被害を受けた
人々は苦しんでいるということが分かった。こうした被害を今後はなくしていかなければならない。
- ・薬害は製薬企業のずさんな管理や、製薬会社のミスのせいでたくさんの被害者が出ることが分かり
ました。今後、自分が薬を使うときは気を付けていきたいし、皆さんにも興味を持ってもらいた
いと思いました。
- ・私たちが薬についての情報をもっと理解することが大切だと思います。
- ・日本では薬害による被害者がいるとは、何となく分かってはいたけれど、今回薬害について学習し、
被害者の声を聞いて、どれだけ薬が危険なものか再認識しました。
- ・今まで知ろうとしていなかったことだったので、知らないところで苦しんでいる人がいるんだと分
かりました。
- ・わたし自身薬を使うときなど、身近なところから薬の使用を気を付けていこうと思いました。
- ・今回薬害について学んで、薬害とは副作用と違い国や製薬会社の管理不足などから起こるものだ

わかりました。薬害を絶対に起こさせないためにも、自分たちが使う薬についてもある程度調べてみたり、国や製薬会社、医師の間で薬についての最新の情報を共有していかなければならないと思います。

5 取組の成果と課題

- ・自分たちで決めたテーマではないこと、また身近な問題でないこともあり、資料配付や視聴覚教材を使って学んだだけでは、生徒自身の気づきを導き出すことは難しかった。
- ・厚生労働省の資料だけではなく、各自で調べてワークシートに取り組むよう指導したが、他の資料を探した生徒はいなかった。
- ・クラスごとに保健室に呼んでいねいに説明すれば、いくらか理解はできワークシートへの記入も進んだが、活動時間が昼休憩や放課後に限られるため表面的な指導に終わった。
- ・資料を読んでワークシートに書き写す作業はできても、自分自身の考えをまとめることができた生徒は半数に満たなかった。
- ・事前に保健委員の理解度や関心の度合いなどがある程度把握してから、課題が明確になるようワークシートを工夫し作り変える必要があった。
- ・教科の保健学習（2年生）の期末試験の範囲に「薬害」が含まれており、「あしび祭保健展の中から出題するので必ず展示を見るように」と、保健体育の教員が投げかけてくれたため、例年よりも多くの生徒が展示物を読んできた。
- ・展示をきっかけに厚生労働省「薬害を学ぼう」の資料を2年生 320 名全員に配付することになり、教科書の内容以上に学習が深まったと思う。
- ・地域や社会の健康問題を、自ら進んで調べたり、自分の考えをまとめたりするためには、日頃から様々なことに疑問を持ち、調べたり考えたりする積み重ねが必要だと思う。

